

三田市障害者生活支援センター事業報告(令和6年4月～12月)

1 障害者生活支援センター運営事業

障害者総合支援法による地域生活支援事業・相談支援事業の指定を受け、障害のある方やその家族からの相談に応じ、自立に向けて必要な情報の提供や福祉サービスの調整・援助を行った。支援にあたっては行政や基幹相談支援センター、サービス提供機関などと連携し包括的な支援を心がけた。生活全般、家庭や職場での人間関係、家計・経済に関する不安の相談が多く、相談者の不安の解消に努め、ともに考える支援を展開した。11月には障害者の福祉と理解を啓発し、また障害者が社会、文化などあらゆる分野で参加する意欲を高めることを目的とした、障害者週間イベントを実施した。

【職員配置】 相談支援専門員（常勤）2名

(1) 個別支援活動

基幹相談支援センター・精神障害者支援センター・障害者就労支援センターと共同実施している総合相談窓口（きいてネット）の中でも、当事者が地域で自分らしい安心な生活を実現するため、「暮らし」に軸をおいた支援を行う機関として、当事者団体やボランティア活動者・地域活動者など地域のあらゆる主体との連携を図り「地域社会からの孤立を防ぐ」相談支援を行った。

ア 相談件数（令和6年度12月末）

実人数：106名（障害者97名、障害児9名）*表の（）内は障害児
（単位：人）

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	合計
実人数	8 (3)	0	23 (1)	51 (0)	15 (4)	0	3	6 (1)	106 (9)
延べ人数	40	0	336	676	70	0	8	29	1,159

イ 相談方法延べ数

（単位：件）

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	文書	その他	合計
67	199	29	589	104	12	156	2	1	1159

ウ 支援内容（重複あり）

（単位：件）

福祉サービスの利用等に関する支援	471
障害や病状の理解に関する支援	456
健康・医療に関する支援	295
不安の解消・情緒安定に関する支援	731
保育・教育に関する支援	25
家族関係・人間関係に関する支援	234
家計・経済に関する支援	378
生活技術に関する支援	43
就労に関する支援	235
社会参加・余暇活動に関する支援	42
権利擁護に関する支援	0
その他【当事者支援に関すること(虐待含む)、障害に関する情報提供等】	8
合計	2918

《個別支援活動の例》

【ひきこもりの方の相談】

80代の母が入院、50代の子の相談。

20代のころに仕事をしていましたが上司から仕事量を増やされたり、叱責されたりとパワハラのような目に合った。その後、家での生活になり20年経った。母の年金と本人の障害者年金で暮らしていたが入院費が増えたことにより、家賃などの支払いが出来なくなった。権利擁護支援センター、地域包括支援センターの支援員と情報を共有しながら、母、本人の安心した生活が送れるよう、就労支援事業所の見学や、相談支援員とのつながり作り、経験の少なさからくる不安の解消などの支援をしている。

【家計管理の相談】

50代で親から小遣いをもらって生活している相談者。アルバイトをして収入があるにも関わらず、親に交渉しないと小遣いをもらえなかった。金銭面での自由がなく、ストレスが溜まっている。お金を持つと、計画的に使うことが難しく、すぐに使ってしまう。親との話し合いや、お小遣い帳の記録により、少しずつお金の使い方を学んでいる。本人がお小遣い帳を付けることで親の理解も得られるようになり、家庭でのトラブルも減り、安心した生活が送れるようになってきた。

【精神疾患のある方の相談】

統合失調症である相談者。人間関係や自分の気持ちとの向き合い方で落ち込むことがある。家事や、仕事、同年代の人との横のつながり、社会現象などに対して日々不安と向き合っている。考え込むと寝込むこともあり、さらに寝込むことで出来ない自分に対して、人と比べてしまうことがある。

【自立に向けた生活支援】

親が高齢になり、実家を離れて暮らしたい思いがある方の支援。勤め先が市外のため、通勤に便利な場所への転居を希望していた。本人の希望する生活や環境を一緒に考えながら見学や体験を調整し、暮らしを想像しながら支援をしている。親元を離れて暮らすことが初めてなので出来るところ、支援してもらいたいところなどグループホームの方と連携を取りながら進めた。

(2) 障害支援区分認定調査の実施

障害福祉サービスの利用希望申請のうち、市より依頼を受けた対象者に対して、国が定める調査項目に基づき障害支援区分認定調査を行った。

認定調査実施件数 (単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	6	5	5	4	5	6	5	3	6	45

(3) 会議の開催

障害者週間会議 毎月第4火曜日

開催日：令和6年4月23日(火)～12月17日(火)

場所：三田市総合福祉保健センター

内容：各施設・団体紹介パネル展示・授産品販売・障害種別相談コーナー・パラスポーツ体験・移動動物園・ステージプログラム(ファッションショー、フィンガーダンサー)

障害者週間啓発イベント「つなげよう明るい未来」

開催日：令和6年11月30日(土)

場所：三田市総合福祉保健センター

時間：10時～15時30分

内容：各施設・団体紹介パネル展示・授産品販売・障害種別相談コーナー・パラスポーツ体験・移動動物園・ステージプログラム(ファッションショー、フィンガーダンサー)

障害者週間啓発イベントギャラリー展示

開催日：令和6年11月26日(土)～12月4日(水)

場所：三田市役所、三田市総合福祉保健センター

内容：各施設・団体紹介パネル展示・合同作品展示

(4) 声の広報事業

視覚に障害のある方に向けて、行政や社協の広報紙の内容を音声化し、お届けした。

- 伸びゆく三田・人権さんだ 9回
- 議会だより 3回
- 図書館だより 9回
- 社協だより 1回

(5) ピアサロンの開催

障害のある方が日頃の悩みを話したり、情報交換をしたりする場を提供することで新たなつながり作りや、生活の楽しみ作りにつなげる支援を目的とし、プログラムにウォーキングや体操、防災学習、季節の製作を取り入れ、交流を行った。

登録者 23名 延べ参加者数 93名

開催日 毎月1回 第3土曜日 10:30～11:30

開催月 令和6年4月～令和6年12月

(6) フリースペースの開催

ピアサロンの後に参加者同士が立ち話をしており、ピアサロン修了後に気軽に話せる居場所を目的として令和5年9月より開催している。支援者を交えお昼ご飯を食べながら、おしゃべりをして過ごす居場所となっている。生活の中での出来事や、仕事の事、家族の事、また、得意な事を披露したり、みんなでカードゲームをしたりなどテーマは決めずに誰でも参加できる機会を作った。

延べ参加者人数 58名

開催日 毎月1回 第3土曜日 12:00~13:00

開催月 令和6年4月~令和6年12月

(7) 自立生活プログラムの開催

障害のある方が自立生活に必要な心構えや技術を学ぶ場として開催している。今年度は、身の回りの物を大切にしながら整理整頓を学ぶ講座、自身の栄養管理をしていくため、野菜を多く取り入れた料理方法を学ぶ料理教室、自分のパーソナルカラーを知り、仕事や遊び等TPOに応じた身だしなみを学ぶ機会を作った。

延べ参加人数 11名

令和6年7月6日(土) 10時~12時

「お片付け編~お片付けセミナー基本のき」

令和6年10月5日(土) 10時~12時

「お料理編~旬の素材でおいしいランチを作ろう」

令和7年3月22日(土) 10時~12時

「身だしなみ編~素敵な大人の身だしなみ」

(8) ひとり暮らしのいい時間の開催

障害のある方が家族の暮らしから自立への一歩を視野に入れ、一人暮らしやグループホームでの暮らしを考え話し合う場を開催した。一人暮らしやグループホームでの暮らしに対する、不安や楽しみ、困った時の支援先、お金の話、防災の知識などを現在暮らしている経験者と話しをすることが出来た。

令和6年度 2回開催

第1回 令和6年9月23日(月) 10時~12時

当事者9人 保護者2人 支援者5人

第2回 令和6年12月15日(日) 10時~12時

当事者9人 支援者5人